

<シリーズ音声訳上の処理 第1回>

## 「原本通り」ということ

久保 洋子

録音図書製作の目的は、墨字を読むことが困難な視覚障害者の目の替りをする  
だと云われます。

私たちの周りにはあふれている情報の多くは、本や新聞、雑誌などの活字情報です。  
視覚に障害があってこれらの活字を読むことのできない方のために、録音図書とし  
て情報を提供するのが音声訳ボランティアの目的です。元々の情報提供者には著作権  
があり、出版された本を別の形にするのは、著作権法の枠の中でしか許されないこと  
です。つまり、あくまでも「原本通り」読むのが大原則です。  
また、視覚障害者の側にも、元の活字情報をその通りに知る権利があるのは勿論です。

ここで、「原本通り」ということを考えてみたいと思います。

“書かれている通りに読む”これは簡単なことのように思われますが、実際にやっ  
てみると数々の壁に突き当たります。例えば、日本語には同音異義語がたくさんあ  
り、漢字を見れば難なく区別できるものが音に変えると区別できなくなるという問題  
があります。また、図や表がたくさん使われている本もあり、これらを原本通り、  
しかも聴いてわかるように読むのは大変なことです。一口に「原本通り」といっても  
実際にはもっともっと数多くの問題をクリアしなければならぬのが現実です。

次に、活字情報と音声情報について考えてみたいと思います。活字には活字の約  
束事があります。句読点、段落をはじめとして、活字の大小、行間をあける、カギカ  
ッコやカッコ、傍線、傍点など、これらは皆、活字の約束事として読者はなんの疑問

もなく受け入れているものです。一方、音声情報の約束事としては、アクセント、イントネーション、間など、これも色々あります。音声情報の基本は日常会話だと考えます。

活字の約束事と音声の約束事は違います。音声訳をするということは、異なる約束事をもつメディア間の変換をすることなのです。段落や活字の大小などが伝えていることも含めて正しく音に変えることが要求されているのです。原文のまま読めば、原本通りの内容が伝わる時にはなんの問題もありません。原本通り正しく読めばいいわけです。「目で見ればわかることが声にするとうからなくなってしまう」こういう所がないか、自分の読みを客観的に判断する力が必要です。

声にするとわからなくなってしまうものを、わかるように読むことを音声訳上の処理、または配慮といいます。ここでも大切なことは、「原本通り」であるか、と共に、読まれたものが一般的な音声の約束事に適しているかということです。

視覚障害者の情報源として点字があります。点字には点字の約束事があり、点字を読むにはこの約束事をマスターしなければなりません。しかし、録音図書の聴き方は特に勉強するものではなく、私たちの日常会話が基本です。録音図書の製作者が製作に都合がいいように約束事を作っても、それが一般的な音声の約束に適合していなければ利用者にはわからない本ができてしまいます。例えば、補足のカッコはトーンを落として読むということはかなり一般的に行われていますが、この場合も、この読みで原文が正しく伝わるかということはその都度確かめる必要があります。伝えなければならないのはそこがカッコであるということではなく、カッコを使って書かれている文の内容です。

録音図書製作のためのマニュアルが作られていて、役に立つことも多いのですが、使い方を誤ると聴いてわからない本になってしまいます。マニュアルにある処理をしていけばいいということではなく、聴いて解るようになっているかというのが問題です。音声情報の伝達には録音図書利用者だけの特別の約束事はありません。私たちの誰が聴いても解るものでなければなりません。

「原本通り」に、聴いてわかる録音図書作りのために、問題点を皆で考えていきたいと思います。

つづく

## 第7回録音図書製作グループ音訳研究会報告

於：盲人情報文化センター9階

2月21日（木）に行われた第7回録音図書製作グループ音訳研究会には15館、40名の参加があった。今回は近畿視情協録音図書製作委員会の図表チームリーダーの久保洋子氏にお願いして「さまざまな目次の読み方」について研修した。デイジー図書を製作していく上で目次の処理がどうかかわるのか、どのような点に配慮するかなどについていろいろな目次を例にだして学習した。

研修終了後、今後の研修会のテーマとして、

- ①校正基準について
- ②漢字の処理
- ③デイジーの編集の学習

があげられた。次回は5月ごろの予定で上記のテーマの中から行うことになった。

### ☆雑誌を読むグループ募集しています！

利用者から依頼のあります、世界文化社発行の月刊雑誌「デリシャス」の音訳をしていただけるグループを募集しています。この雑誌の内容は副題が「食と旅を楽しむ」で、主に食べ物の話が中心の雑誌です。7、8人で一人20分程度の量です。グループで取り組んでみたいというところがありましたら、清水までご連絡ください。

### お知らせ

#### 『ろくおん通信』の更新について

グループの方へは、2002年度の『ろくおん通信』の申込用紙を同封しています。2002年度も引き続き希望されるグループは、申し込み用紙に記入の上、録音製作係宛お送り下さい。

550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

盲人情報文化センター 録音製作係

## お知らせ

### 2002年度 音訳の初心者を対象にした音訳基礎講習会のご案内

毎月 第4水曜日（水曜コース）  
第4金曜日（金曜コース）  
期間 2002年5月～2003年3月まで  
講師 橋本 勝利 氏  
定員 各コース 15名程度  
費用 5000円  
（※費用は途中不参加でも返却できません。）

この講習会の受講を希望される方は盲人情報文化センター録音製作係までお申し込み下さい。

## 利用者から製作依頼を受けている原本

- 『蛇神』今邑 彩著 <小説>
- 『雪洞鬼』菊池 秀行 著 <小説>
- 『歩行禅』松尾 心空 著 <仏会>
- 『福音と派遣 神学63号』東京神学大学神学会 <キリスト教>
- 『勉強なくして合格なし、関西ブロック』教員採用試験研究会 編
- 『デリシャス 食と旅を楽しむ』世界文化社発行 <雑誌>
- 『エアラインハンドブックQ&A100』全日空広報室 <運輸>

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

## デジ編集を始める (その6)

### 3. デジ編集のいろいろ

Sigtuna DAR を用いての作業がデジ編集の中心であるが、Sigtuna DAR 以外にも日本障害者リハビリテーション協会 (以後リハ協) 提供あるいは市販の編集ソフトを用いているいろいろな場面に合った編集を行うことができる。ここでは、これらのソフトごとに作業の一端を紹介する。

#### 3. 1 Sigtuna DAR 2.017

デジ編集の基本ソフトであり、実績、完成度ともに非常に優れたソフトである。

##### (1) 録音

カセットテープから直接〔テープ転送〕で録音 (取込み) できるほか、MO オーディオディスクあるいは他のデジプロジェクトからデジタル音声 (Wave) データ (ただし PCM に限る) を〔Wave インポート〕により録音することができる。

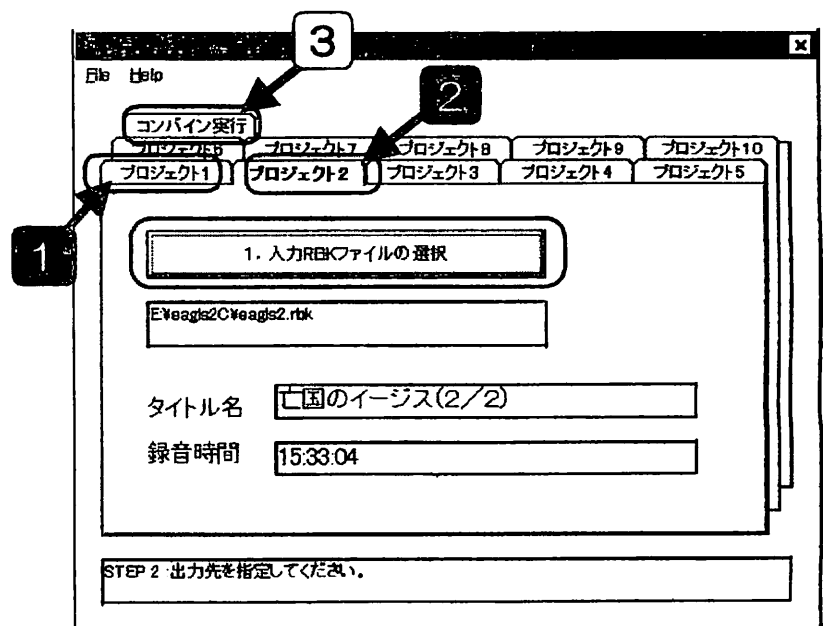
##### (2) コーディング

PCM、22050Hz が基本であり原音に近い。また、音質を犠牲にすることなく4分の1に圧縮するADPCM、22050Hz も可能。

CD-R (650MB) に記録する場合、PCM では90分テープ2.5巻 (約4時間) を、ADPCM では90分テープ10巻~12巻 (約15時間) を記録することができる。従って、これまでは、これより長い本は分冊、編集し複数のCD-R に記録する必要があった。しかし、Sigtuna DAR で編集したプロジェクトを別のソフト (Audio Data Converter 後述) を用いて MPEG Audio Layer3 (mp3)、32kbps でコーディングすることにより音質を落とすことなく約4.1時間まで記録できるようになった。

#### 3. 2 Sigtuna Combine Tool

このソフトを用いて Sigtuna DAR で編集した複数のプロジェクトを結合することができる。長編の本を数人で分割して編集し、最後にこのソフトで結合して一つのプロジェクトにまとめることもできる。筆者の最近の実施例を紹介する。約3.1時間の長編小説を2枚のCDに分冊して発行していたものがあったので、このソフトで結合した後、結合部分の粹アナホかを必要に応じて削除・修正して一つのプロジェクトにまとめた。ビルドブックした後、mp3でコーディングし、1枚のCDにまとめて再発行した。



入力RBKファイルの選定画面

- ① [プロジェクト1] タブをクリックし、[入力 RBK ファイルの選定] ボタンをクリックしてプロジェクト1を指定する
  - ② [プロジェクト2] タブをクリックして、同様にプロジェクト2を指定する
  - ③ [コンバイン実行] タブをクリックし、[出力 RBK ファイルの指定] ボタンをクリックして予め作成しておいたホルダーを指定した後 [処理スタート] ボタンをクリックして結合
- 注：結合できるのは Sigtuna DAR で編集したプロジェクトで、PCM または ADPCM のいずれでもよい (後で紹介する LpStudio Plus で編集したプロジェクトは結合できない)

### 3. 3 Audio Data Converter

Sigtuna DAR または LpStudio Plus で編集したデジタイズ書のオーディオデータを PCM、ADPCM、MPEG Layer3 の三者間で相互に変換することができる。

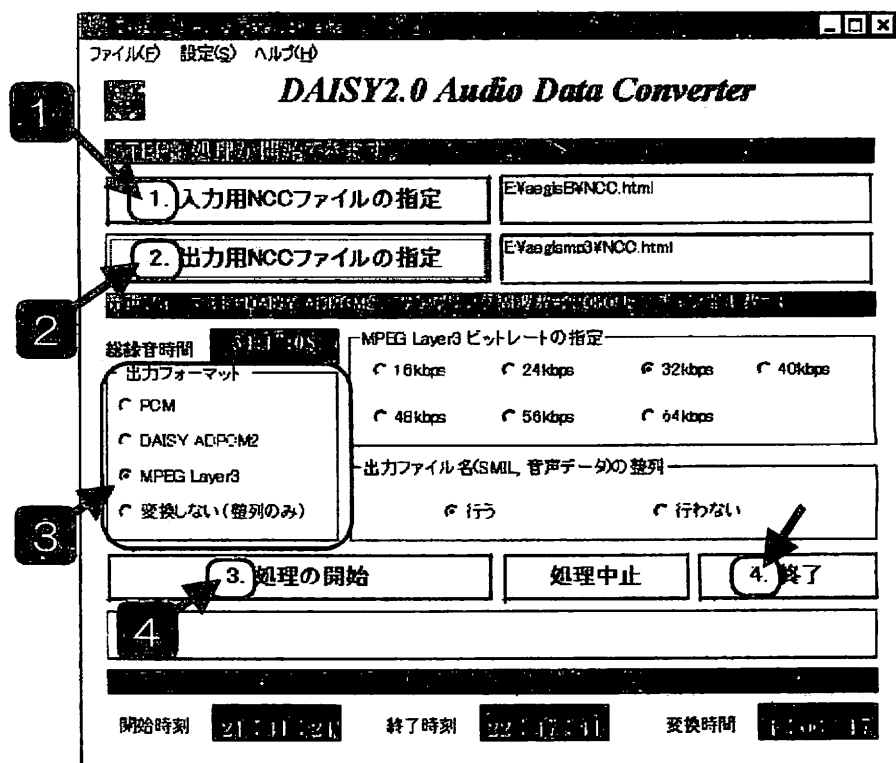
最大の特徴は41時間までの長時間プロジェクトをmp3 (32kbps) で約11分の1に圧縮することによりCD-R (650MB) 1枚に記録できることである。このほか、プロジェクトデータをmp3で11分の1に圧縮してDVD等に保存しておき、必要なときは逆にPCMに戻した後に修正、再編集等を行うことができる。ただし、PCMに戻してもSigtuna DARで開くことは出来ない。修正、再編集はLpStudio Plusで行うことになる。これはプロジェクトを構成するファイル体系が両者で異なることによるもので、Audio Data Converterを実施することでLpStudio Plusのファイル体系 (smil, wave, NCC.html) に変換されることによる。

- ① [入力用NCCファイルの指定] ボタンをクリックして変換元のプロジェクトを指定する。
- ② [出力用NCCファイルの指定] ボタンをクリックして予め作成しておいたプロジェクトホルダーを指定する。このホルダーに変換された多数のデータファイルが収容される。

③出力フォーマットを指定する。

- ④ [処理の開始] ボタンをクリックして変換が完了したら [終了] ボタンをクリック

操作画面の最下段に変換に要した時間が表示されるが、筆者が実施した例では31時間のADPCMデータ(先のプロジェクトの結合で紹介したもの)をmp3に変換するのに1時間6分17秒の時間が必要であった。



Audio Data Converter 設定画面

(つづく)

(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)